

令和5年度 秦野曾屋高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年10月31日(火) 14:30~16:00

場所 秦野曾屋高等学校 会議室

出席者(敬称略)

(委員) 反町聡之、山口正樹、梶山孝夫、加藤剛、関野浩子、鳥海靖史、吉田正也
(事務局) 高橋正広、沼田伊里、甲斐正、大町友子、齋藤昂良、綿引俊哉、廣重直樹、
川島聡、吉崎慎一郎、高橋秀文、澤浦和香、党拓哉

14:30~15:15 授業見学

化学基礎(1年) 論理国語(2年) 日本史研究(2年) 英語コミュニケーションⅡ(2年)

15:20~16:15 協議

議事録

校長あいさつ

- コロナ5類移行後、部活動や夏季福祉体験、文化祭等さまざまな行事が実施できる状況となっている。
- 学校説明会についても多くの中学生・保護者に来場いただき実施している。学校説明会における校内の案内は生徒が行うことができた。
- 先日来年度の募集定員が発表されたが、7クラス規模279人ということである。

学校運営協議会委員会会長挨拶

- 本日授業を参観させていただいたが、生徒の様子を実際に見ることで学校の成果を実感することができた。他の委員の方もご意見をいただければと思う。

各グループ等の取組みについての報告

- 広報情報・特色グループ
 - ・学校説明会についての報告(第1回参加組数は210組、第2回は190組。)
- 生徒会支援グループ
 - ・本年度前半の部活動の成果について報告。
 - ・文化祭はコロナによる制限が緩和され、調理をはじめ、コロナ以前の文化祭が実施できた。
- 進路支援グループ
 - ・令和5年度進路希望状況について、指定校推薦、公募推薦、総合型選抜で大方を占めている。
 - ・学校としては一般入試も視野に受験できるよう長い目で見ながら指導を続けていきたい。

- 学習支援グループ
 - ・英検にチャレンジする生徒が増えてきた。
 - ・11月14日に授業力向上のための公開研究授業を企画しているところである。
- 生活指導グループ
 - ・今年新しい取り組みとしてSC・SSWが全校に配置されることとなった。本校では毎回枠が埋まる状況となっている。
 - ・神奈川県全校で実施されている「かながわ子どもサポートドック」について、自分でSOSを出せない生徒についても、アンケート調査を実施し、「スクリーニング会議」を通じて見つけ出す支援を実施している。
- 管理運営グループ
 - ・防災、美化、PTA活動を担当しているが、コロナによる制限が解け、PTA役員や生徒による企画が増えてきている。ふれあい美化清掃では、協力してくれる生徒・部活動を募集しているところである。

委員からの質疑（○：委員、●：本校関係者）

- 4年制大学への進学実績について教えていただきたい
- 本校では指定校推薦により2学期にほとんど進路が決まる状況である。一般入試では、若干名ではあるが「MARCH」等への進学実績もある。

- 英検については県の指針か。
- 県の指針ではない。学校の特色として英語教育を行い、英語の教員が補習などを行うことで校内受験ができる体制を整えている。

- 「かながわ子どもサポートドック」について知りたい いつ頃行うのか、神奈川県での取り組みなのか。
- 15項目についてA、B、Cで自己評価し回答する形で、県のサーバーへデータが蓄積され、教員、SC、SSWがチェックしている。全県で実施している。

意見交換（○：委員、●：本校関係者）

- 徐々に学校の授業を見させていただく機会を得た。自分が卒業した頃と比べると、グループでの活動が増え、様々な意見交換が生徒間で活発に行われていた。
子どもたちの様子も、身だしなみを含めて好印象を受けた。
- 生徒たちを見ていて、楽しそうだと感じた。
- 秦野市内の小中学校も1人1台端末が導入されているが、高校生も端末を活用している様子が見られた。ICTの使い方によっては、わかりやすい授業展開ができると感じた。さらなるICT活用を推進していただきたい。
- 生徒間で活発にディスカッションしている様子がみられた。

- 高校の授業を参観するのは十数年ぶりである。小学校は当時アクティブラーニングが盛んに言われており、小学校の改革を意識しながら参観すると、高校の授業はチョーク・アンド・トーク中心に感じた。しかし、今日の授業ではその当時とはかなり異なっており、様々な話し合いを通じて学び合いが進められ、生徒が楽しそうに学習活動を進めている様子がみられた。また、高校生はしっかりと目的意識を持って学んでいるように感じる。
- いくつかの授業で Chromebook を使って教材が提示されていた。高校では普段の授業でどのように活用しているのか。
- 1年生では8時半の朝学習において、スタディサプリにログインし、各教科ごとに配信される宿題に取り組んでいる。
- 1・2年生は1人1台端末導入が完全実施されており、事情があり購入できなかった者についても学校で貸し出しをしている。
- 理科では毎授業ごとにタブレットを活用している。タブレットを見せ合いながら振り返り活動をして学びを深めている。社会では意見を交換するために付箋を使うソフトでKJ法のような学習を実施している。福祉ではパワーポイントをつくり、学習のまとめを行っている。
- 表情が穏やかな生徒が多く、とても自由な雰囲気であると思う。不登校生徒等の課題を抱える中学校も多い現状があるが、なにかアドバイスがいただければ情報共有したい。
- 主に不登校にならない指導をやっている。担任としては、生徒をよく観察し、事あるごとに生徒と面談し、コミュニケーションを増やしている。また、保護者と連携しながらすぐにSC、SSWと連携を取り相談ができる体制を整えている。
- 教室の雰囲気や生活態度を見させてもらうことで学校の雰囲気を感じ取ろうとしたが、1、2年生の生徒が違うと思ったのが教室のロッカーの上の様子だった。2年生はロッカーの上に私物が多く置かれており雑然とした印象を受けた。思春期の時期の様々な成長はあると思うが、整理整頓ができないことは気の緩みであるため指導をする必要もあると感じた。
- ICT対応の教員のスキルの差については気になるところである。教材についてはアーカイブなどがあり共有できるようになっているのか、それぞれで作成しているのか、教えてほしい。
- 教科書会社の作っている教材についてはサーバー上で共有しているが、各教員においてアレンジして使用している。各教員の作成したものについては共有することは強制しているわけではなく、各教員の授業スタイルによっては共有されていないものもある。
- 得意な先生が飛び抜けて優れた教材を作るが、それが横展開される必要性を感じる。
秦野市でも教育委員会ではそういった議論を進めているということを知っている。自分の作った教材は自分のものだという考え方ではなく、共有していくようにしていただくといいと思う。
- 11月14日には授業力向上の公開研究授業を行うが、そこで好事例を教科として共有する実践を進めている。
- 理科では、生物基礎・化学基礎で担当する教員で協議をし、すべて同じ教材を使って授業を進めている。この取組みを他の教科にも広めたい。

- 久しぶりに授業を見させていただいた。「秦野曾屋高校らしさ」を感じた。教室の中で穏やかな空気が流れているというのが特徴だと感じるが、教員にとってはそこに物足りなさを感じ、様々な刺激を与えようと努力されているのを感じる。
- ICTは「端末ありき」ではなく、教材を作りながら、質を担保しながら学びに繋げていくというのは非常に難しいことだと思う。
- ICT以外でも、教員が情報共有し足並みを揃えていくことについて、協力していただきたい。ICTに堪能な先生は、年配の先生を支えていけるよう頑張ってください。
- 協働的な学びについての有効性について、子どもたちの間の感情の交流が生まれ、それが子どもたちの心を成長させるという意見もあり、その面において有効性があると考えている。
- 感情の交流をプロデュースしていくのが、先生方のお仕事ではないかと考える。知識を与えるだけではなく、そういった面についても考えていただきたい。先生同士で、その点も意識しながら生徒へ向き合っていたらと思う。

- 今日の協議会のパターンは実際に生徒を見た上でそれをテーマにしながら意見交換をするもので、今後も継続してもらいたい。2年生の授業を見たが、2年生は中だるみの時期ではあるものの、非常に落ち着いており、素晴らしい学校であると感心した。普段の教育活動がしっかりと行われている証ではないだろうか。
- 大学職員の立場では、大学生のICT活用についてはICT活用が目的化しているというところを感じる。生徒がしっかりとICTについて理解しておらず、「活動あって学びなし」ということにならないか注意しなければならない。たとえば数学では数式の係数を変えていけばグラフの頂点がどんどん変わっていく。しかし、あとから生徒に聞いてみると、なんとなく「わかったつもり」になるだけで、実際に深いところまで学べていない、ということがあった。しっかりと板書を通じ、ノートに自分で書き、理解をさせた上でその応用としてICTでアウトプットできるような活動が必要である。